電 力 情 報

NO. 83

平成28年3月29日

東 北 電 力 (株)

2月分の電力需給実績について

1. 電力需要について（表 - 1 参照）

2月分の販売電力量は、71億8,200万kWh、対前年比101.8%の実績となりました。東日本大震災からの復興の動きなどが続いていることに加え、前年に比べ検針期間が長かったことや、気温が低かったことによる暖房需要の増加などから、前年同月実績を上回りました。

用途別の実績については、以下のとおりです。

特定規模需要以外の需要（自由化対象以外のお客さま）

電灯は、東日本大震災からの復興の動きなどが続いていることに加え、前年に比べ検針期間が長かったことや、気温が低かったことによる暖房需要の増加などから、対前年比104.3%の実績となりました。

特定規模需要以外の需要の合計では、対前年比104.4%の実績となりました。

特定規模需要（自由化対象のお客さま）

業務用電力は、需要回復の動きがあるものの、契約電力の減少などから、対前年比98.9%と前年実績を下回りました。

特定規模需要の合計では、対前年比100.0%の実績となりました。

なお、産業用その他電力については、大口電力が大きなウエートを占めており、その概要は以下の参考のとおりです。

[参 考]

大口電力

大口電力は、一部での生産減少があるものの、復興需要や一部での前年における定期修理影響などから、対前年比101.1%の実績となりました。

2. 供給力について（表 - 2 参照）

2月の発受電電力量の合計は、75億3,000万kWh、対前年比101.6%の実績となりました。閏年の影響による前年との日数差などにより、平成27年7月以来、7カ月ぶりに前年実績を上回りました。

（自社水力）

出水率119.0%の豊水となり、前年出水率を18.4%上回ったことなどから、発電量は前年を6,800万kWh上回る6億200万kWhとなりました。

（自社火力）

運転状況の違いなどから、発電量は前年を7,700万kWh上回る54億8,500万kWhとなりました。

（自社原子力）

定期検査により、女川原子力発電所の全号機と東通原子力発電所1号機が運転を停止していることから、発電量はありませんでした。

（自社新エネルギー等）

地熱発電所の運転状況の違いなどから、発電量は前年を100万kWh下回る7,700万kWhとなりました。

（他社受電）

他社火力の運転状況の違いなどから、他社受電合計では、前年を100万kWh下回る20億3,400万kWhとなりました。

以 上